

第2回 河内長野市学校給食のあり方検討委員会 議事要旨

日 時	令和3年6月23日（水）午後7時～
場 所	市役所8階802会議室
出 席 者	委員：車谷会長、上代副会長、松原委員、室賀委員、宮阪委員、井上委員、高出委員、嶋田委員、山口委員 事務局：教育委員会事務局職員 傍聴者：7名
案 件 等	1. 議題 ・①選択制給食と全員給食の方向性について ・②各調理実施方式の特徴について ・③視察候補地について ・④検討委員会スケジュールと協議内容について
資 料	(1) 第2回検討委員会次第 (2) 資料01：選択制給食と全員給食の方向性について (3) 資料02：各調理実施方式の特徴について (4) 資料03：視察候補地について (5) 資料04：実施方式別メリット・デメリット考察シート (6) 資料05：検討委員会スケジュールと協議内容
会 議 内 容	
<p>1. 議題</p> <p>① <u>選択制給食と全員給食の方向性について</u> 【資料01を基に事務局が説明】</p> <p>○車谷会長           今、事務局のほうから大変詳しい資料を基にして説明をいただきました。これにつきまして、ご質問、ご意見はございますか。</p> <p>○山口委員           項目の食育のところですが、「中学生の年齢では、子ども自身が、十分持参弁当を作ることができることから」となっていますけれども、できる子よりもできない子のほうが多いと思うので、ここがプラスというのがちょっと気になります。</p> <p>                          それと、全員給食に比べ、選択制給食のコストの方が低くなるとなっていますけれども、給食を食べたくても、ちょっと人数が少なくて食べられないという子はお弁当を持っていっています。なので、お母さんがお弁当を作ったり、パンを買っているため、お金はかかっており、コストが低くなるというのがプラスというのもちょっと違うと思います。</p> <p>                          あと、この項目の中に、食育のところ、地産地消も加えたい</p>	

と思います。選択制給食よりも全員給食にしたほうが、地産地消の違いもあると思います。どうぞよろしくお願いします。

○車谷会長            山口委員から、食育に関する観点から、それから保護者側の観点から、それから地産地消は食育に関する観点でしょうか。その辺からのご質問ですよね。その辺、事務局、どうでしょうか。

○事務局            まず1点目、食育の項目の選択制給食の1つ目「中学生の年齢では」という部分で、中学生の子ども全員が作ることができるという話ではないというご意見ですね。ちょっと申し訳ないですが、これは表現的には、中学生の年齢の子どもさんでは、子ども自身が十分に持参弁当を作ることができる可能性があるということで、プラス面という評価にさせていただいています。全員がそういう機会がある、できるという意味合いではなく、実際に作られていない方も、作れない子どもさんもおられる反面、作ることができる子どもさんについては、心身ともに成長していく時期に、自らの体について考え、関心を持つ機会となるという意味で、プラスにさせていただいています。

続きまして、コストにつきましては、いわゆる整備に関する制度とかの行政的な負担部分ですね。給食に関しては、基本的には材料費は保護者さんの負担ということになっており、その他の経費は市町村のほうで負担するのが原則になりますので、保護者さんのコストが低くなるわけではなく、行政のコストが低くなるという意味でプラスとさせてもらっています。

最後、食育に関する部分なのですが、食育の全員給食の3つ目の項目、「学校給食に地場産物を取り入れることで、自然と食べ物との関わりや地域との関わり、生産者への感謝の気持ちを養うことができる」ということでプラスとさせていただいており、これがまさしく地産地消の考え方になると思います。

回答としては以上になります。

○嶋田委員            これは資料にはないのですが、2021年2月17日の産経抄、新聞記事です。そこに参考になる部分があるので、少しだけ読ませていただきます。文部科学省によると、昨年自殺した小中高生は479人に上り、統計のある昭和55年以降で最多となった。中でも女子高生の自殺者は138人で、前年より71人も増えている。原因や動機については、学業不振や進路に関する悩みが上位だった。これはコロナのことで学校が休みになったことも影響していると思います。

もう1つ、これも情報です。ユニセフが昨夏、20年の夏に公表し

たデータにもそういうことは表れていました。38か国の子どもたちを対象に幸福度の調査をしたものだ。2020年時点で38か国というくくりだから、恐らくOECD加盟国の話だと思いますが、日本の子どもたちの身体的健康度合いというのは1位だったそうです。一方、精神的幸福度は何と37位。若い世代の死因の第1位が自殺という統計もある。これは先進7か国、G7で日本だけに見られる現象だという。

こういう記事を読みますと、前回西中の先生がおっしゃった、昼休みに全員給食になると子どもたちに構う時間が減るといふ部分がちょっと気になっていまして、お昼休みの時間が減って、子どもの様子を観察する時間が減るといふのは、この記事を読むと、確かに食育や肉体の健全な成長も大事だと思いますが、そういったところの配慮も必要だと思います。

それと、全員給食になると、親子のコミュニケーションが減るといふマイナス要素があるという部分も、この記事の内容を見ると、どうしても気になってしまいます。そういったところ、教育委員会のほうでは、そういったところで何かお考えがあればお聞かせをいただきたい。

○事務局

前日も、特に全員給食になると教員と生徒とのコミュニケーションの時間が減るのではないのかとか、弁当給食にすることで親子のコミュニケーションが減るのではないかというようなご質問、それが今言っていたような、自殺などに結びついてくる可能性もあるというご意見だったと思います。当然、今回こういうふうを選択制給食と全員給食に関わっての比較もさせていただきながら、今後は、もし全員給食ということであるならば、こういうところはやっぱり解消していく必要があると思っております。

時間が減るからではなくて、例えば給食をする中で先生と生徒とのコミュニケーションや生徒同士のコミュニケーションを維持するとか、休み時間だけが全てのコミュニケーションの場ではないという観点からも、食に関する指導を進めていく必要があると思います。

一方で、今まで弁当をお子さんのために一生懸命作っていただいていた保護者の方もいらっしゃると思いますので、そういう点も事務局としてはどう生かしていくのかというのにも検討していかないといけないところだと思っております。

○嶋田委員

資料のほうは、どうしても食育、身体の健全育成というところに振り過ぎている感があったので、精神的な部分のケアという部分をもう

少し考えていただきたいという意見です。

以上です。ありがとうございます。

○車谷会長 非常に大きな観点からご心配されるあたりを出していただけたと思います。

そうしましたら、今説明されていた資料に少し限定しながら、何かご質問、ご意見ございましたら。

○高出委員 全員給食の保護者側の観点で、マイナス事項で書いている「弁当を通して、子どもへの愛情を表現したり」というのが、私は逆に、子どもが中学校になって、中学校のホームページから給食のメニューがカラーで見れるようになり、それを通して、あしたはこの弁当だね、こんなんが出るねとか、これおいしかったよとか、これ作ってみてとか、逆に子どもとのコミュニケーションが増えて、こういうのが好きやったんかなとか、給食を通して逆に我が家ではコミュニケーションを取れたので、これは別にマイナス事項とかそういうのは関係なく、弁当だけじゃなくて、遠足のときにはお弁当を作るし、それだけでも十分なのかなと。これはマイナスではないなと思います。

あと、給食の食育の項目で、子ども自身が弁当を作ることができる可能性と言われましたけれども、私、自分自身が中学校のときに親から言われてお弁当を作らされていたのですけれども、嫌でたまらなかったもので、やっぱり給食があったらどれだけ楽かと思いました。

○車谷会長 高出委員の日頃の思いも含めて語っていただけたのではないかなと思います。意見としてという形でよろしいですか。

それ以外に何かご質問等ございませんでしょうか。

○上代副会長 4ページの施設運営の部分について、詳しくお聞かせ願いたい部分がございます。提供食数が200食を上回ると提供が困難になると書かれていまして、右側の全員給食の場合は、全員給食なのに、最適な運用を行うことが可能である。250食は難しいのだけれども、2,061人の全員は賄えるという、その辺の違いをちょっと教えていただきたいと思います。

○事務局 まず、選択制給食のほうの上限が、提供食数が250食を上回ると提供が困難になるというのは、今のままで選択制給食を続けたとしても、これ以上食数を増やすことはできませんという意味です。

今、ここでの比較については、選択制給食をそのまま続けるか、も

しくは全員給食のほうを導入するかというための資料でもありますので、全員給食は、やるとしましたら、やはり設備的な投資を必ずすることになり、そういう観点でプラス面という表現を取らせていただきました。

もう1つ追加でご説明させていただきたかったことがございまして、現状の選択制給食の課題といたしましては、このほかに課題が2つございます。1つは、給食センター内で弁当を詰めるスペースの問題がございまして。先ほど表3の説明の中で、現状の給食センターは、小学校での全員給食実施を想定して建てられているために、提供食数が250を上回ると困難になるというのは先ほどの説明にあったと思いますが、こちらにつきましては調理能力の問題でありまして、それ以外に、弁当を詰めるスペースについても、安全管理面、特に衛生管理面を考慮した場合に、今確保しているスペースが限界でありまして、この部分になりましたら、1日200食程度しか提供できないのが現状であります。

2つ目は、今後の選択制の喫食数が増加した際の学校への配送経費の問題がございまして。現在の配送については、数も限られているため、中学校への配送については、1台もしくは2台の配送車に集約して配送しておりますが、今後、喫食数が増加した場合には、配送車及び人員を増加する必要があるために、これに関するコストは現在のままとはいかず、委託料を上げる必要性が生じてくるということがございまして。これが2つ目の課題になります。

追加の説明につきましては以上です。

○上代副会長 要は、お弁当箱を並べるスペースの問題と理解してよろしいですかね。

○事務局 まさしくそのとおりでございます。

○上代副会長 分かりました。ありがとうございます。

○嶋田委員 今の説明はもうちょっとしっかりしてほしいと思います。全員給食にしても、設備投資と人員配置でコスト増は必ず起こるわけでしょう。その説明をせずして、選択式だけがコスト増するというふうな印象を与えるような説明に聞こえました。何か全員給食ありきの説明のように聞こえ、違和感があります。

○車谷会長 今、嶋田委員のほうからそういう厳しいご指摘をいただきました。

現状についてのご説明いただいたと聞かえているのですけれども、プラス、経費負担については、少し違った捉え方をしても仕方ないような内容ですので、そのあたりは両者比較する中での検討に入っておりますので、少しそのあたりは控えていただきながら検討していきたいと思っております。

○松原委員

前回の会議に比べて、非常に詳しい資料が提示されていて、選択制あるいは全員制のよさ、メリット、デメリットというのはそれぞれ説明いただいたので、大分詳しく分かったと思っております。コストについてのご説明については、また次回以降、詳しく資料を提示していただき、また教えていただけたら助かります。

先ほどもお話に上がっていたように、子どもの人権というのは絶対考えていく必要があるところなので、給食がどの形であれ、人権というのは絶対に守っていかないといけないというのは原則だと思っております。我々の絶対の責任ですので、学校もどの形であれ全力を挙げて子どもたちを応援していくというのが基本だと思っております。

あと、今のお話の中では、全員給食の方向性というのも出ていると思っておりますが、いかにして選択給食のよさである親子間の愛情表現や、保護者目線での子どもの健康管理を組み入れていくのかというのをしっかり考えながら、全員給食をするであったとしても、そのあたりをしっかりと残しながらやっていくということを考えていくべきと思っております。

○車谷会長

今、学校現場の校長先生からそういうご意見をいただいております。それに関連して、何か相関連するようなご意見等ございますでしょうか。選択制給食のメリットもぜひ取り入れながら考えていく必要があるというご指摘だったと思っております。

今、事務局のほうから、実際に給食センターで工夫されておられることであるとか、今現在やっておられる情報提供はありますでしょうか。特に給食センターの中でやっておられることがございましたら、ご紹介いただけたらと思っております。

○事務局

給食センターでは、毎年、卒業前の小学校6年生に向けて、お弁当レシピ集というのを作成し配付しております。お弁当のレシピはもちろんたくさん載せているのですが、それだけではなくて、どうやったらお弁当で栄養のバランスを取りやすくなるかのポイントや、衛生的なポイント、切り方、調味料の量り方、火加減、水加減など、子どもが見て調理の基本が分かるようなこともたくさん載せているつもりで

す。

私の所属校では、お弁当の授業をいつも卒業前にするのですけれども、この授業をした後でレシピ集を配付するという形にしています。そうしたら、子どもたちはすごく喜んで、「先生、中学生になったら一回作ってみるわ」とか、「これ、お弁当だけじゃなくて、おうちの人にちょっと食べてもらおうかな」とか、結構そういう声も出てきます。6年生に配っているのですが、そのときに一緒に各小中学校にも何冊かずつお配りしていますので、学校の調理実習の参考にしていただいたりという声も聞いております。

○車谷会長

今、事務局からご指摘があったように、平素からそんな工夫もやっておられるということで、食育をどんどん進めていただければ、そんな工夫も結構やっていただいている、そのあたりの観点も実際出されました。

両方の観点でも構いませんし、選択制の給食の観点でも全員給食の観点でも構いません。ご意見等ございましたら、お出しただけならと思っておりますけれども、どうでしょうか。

○宮阪委員

いつも子どもたちに一番接している部分で、前回も生徒に聞いたら、中学生はやっぱりお弁当がすごく楽しみということをよく聞くので、お弁当というのを大事にしたいとは思っています。それから、生徒たちの希望の大半はやはりお弁当がいいと思っています。

でも、今回、選択制のいろんなメリット、デメリット、全員給食のメリット、デメリットを見ている中で、みんなが給食になったほうが、ほんとうにしんどい子どもたちにとってはいいかもしれないと思いました。それから、お弁当を作ってくれる、忙しくて作れない人とかいろんな状況はあるのだけれども、そういう愛情をかけるという部分では、いろんな工夫、違うことで愛情を出せる部分もあると思います。

いろいろ考えたときに、やはり全員給食もありかなと思うのと、いろいろ給食を食べてきた職場の人に聞いたのですけれども、現在の選択性給食の弁当を見るのと、自分が中学校のときに全員給食で配膳されて見るのでは、全然おいしく感じる見た目が違うというので、自分が中学のときは全員給食でおいしかったなという経験をされてきた人の意見も聞いたりしたら、やはりみんながよそいたての給食を食べるというのはまた違うなというのは思いました。

もう1点聞きたいのは、行政的な負担のコストというのを説明していただいたのですが、今日話している中で、全員が給食を頼んだら、そのコストは、いっぱい作るから安くなるのではないですか。コスト

に関してはちょっと分からないところはあるので、また教えていただけたらと思います。

○車谷会長 後半のほうの給食を作る上でのコスト、そのあたりは何か資料とかはあるのですか。

○事務局 資料というよりは、一般的な考え方からしましたら、今の選択制給食は、基本的には小学校と同じ材料を大量に使って、一部の部分に関して、中学生に合ったカロリーとか栄養の部分で補食的に追加しているような現状にあります。ですので、一般的に言いましたら、発注量が、選択制の分の数量が増えてきた場合は、発注材料に関しましてコストは下がるものと考えます。

○車谷会長 学校現場の声として、しんどい子どもに焦点を当てて考えていくと、全員給食ということも、いろんな課題はあるけれども、必要かなというふうな、そんな現場の先生方の声も含めたご意見だったと思います。

○山口委員 今、コロナ禍で、大阪市が給食を無償にしているのですね。河内長野市は選択制だったら、もしそういうふうに言われても無償ということにはならないと思うので、全員給食だったら対象になるというものもあるのかなと思いました。

○車谷会長 大阪市ですかね。そういう事例があるというご報告ですね。

○上代副会長 もう1個、資料についてなのですが、2ページ上の表1を見ていまして、前回頂いた資料と比べますとびっくりしまして、前は選択制も結構あると思っていたのですが、今回、※印がついていて、今、徐々に全員給食に向けて検討しているというようなことで、そういう流れがあるのですか。今の山口さんがおっしゃったような、そういうあたりとも関連していたりするのかなという感想です。

○事務局 第1回目で事務局のほうからご説明させていただいたとおり、今、社会の情勢とかを鑑みましたら、民間調理方式の選択制を実施していた市が全員給食を検討しているということは大きな動きがあると認識しておりますし、おっしゃるように、国全体が少しずつ、現状として、子どもたちの成長や食育も含めて考えられてのことであろうというふうには考えております。

もう1つ、宮阪委員が教員としてのやり方で気になることもあると



おっしゃられていたことも含めて、今後私どもも全員給食を念頭に置きますと、そういうところをどう解消できるのかということも大事なことだと思いますので、できましたら次回以降でそういうふうな点も事務局としてきちんと調査をして、ご提案させていただけたらと考えます。また、親子での愛情のかけ方、コミュニケーションの取り方など、全員給食をしたとはいえ、工夫してできる方法がないかということも1つは探っていきたい部分ではありますので、お願いいたします。

○車谷会長

今、資料01を改めて見させていただく中で、特に大阪における中学校給食の実施状況推移が、先ほども説明がありましたように、右肩上がりに全員給食が上がっていて、選択給食がどうしても伸び悩んでいるというのが、この黄色と青のグラフからも読み取れるわけです。それから、吹田、茨木、堺市が新たな検討に入っている。かなり大きな市がそういう方向を検討しているということで、多分あと何年かすれば、またその方向も加わってくるのかなという感じがします。

皆さん方委員のお考えを聞かせていただくと、かなりいろんな思い、お考え、それから保護者の立場、それから教育的な大きな観点から考えていただいていると思っております。本当に真摯にこれは受け止めて考えていく必要があるかと思えますし、学校給食だけではなく、河内長野の教育をどうするのかという本当に貴重なご意見を頂戴していると思っておりますし、事務局から先ほどお答えいただきましたように、非常に教育的な観点から改めて見直していかなければならないということも、発言として出ておりますので、そのあたりを含めて考えながら、今後の方向性を定めていかななくてはならない。委員会ですので、これからの方向性を決めていかなければならないと思っております。実際に保護者がお弁当を作るということ、保護者の方、お2人おられますけれども、どうですか。子どもたちのお弁当というのは、井上委員、どうですか。

○井上委員

今日まさに息子が遠足で、幼稚園以来、久しぶりにお弁当を作りました、息子のことを考えながら作るお弁当、帰ってきて、ママすごくおいしかったよ、全部食べたよと言ってくれる、このコミュニケーションもすごく大事だとはちょうど今日実感しました。

第1回目のこの委員会が始まるまでは、私は完全に全員給食がいいと希望していました。やはりお昼ご飯、お弁当だけではなく、朝ご飯も夜ご飯も母親は考えて作っているのです、お昼ご飯だけに愛情を込めてコミュニケーションを取ろうというわけでもないのです、朝も夜も考えて作っているし、コミュニケーションはそれなりに晩ご飯のときに

取ることができるとは思っていました。

あと、私去年、給食の物資購入委員会を担当させていただいて、給食センターってこんなことまでしてくれるのだと直に感じたのがすごく感動して、給食センターの方、子どもたちのためにすごくいろいろ考えてくださっていて、そういう活動を恥ずかしながら私はあまり知らなかったの、それを保護者の皆さんにも伝えて、給食をどれだけいろんな人が考えて作っているかというのをもっと伝えてもいいと思います。

ただ、先ほどから話が出ているみたいに、先生側の観点として、子どもたちと生徒たちとのコミュニケーションの時間がちょっと短くなってしまおうというのはやはり問題だと思うので、それに関して、全員給食をしているほかの市の、時間がない中でどんな心のケアをされているのかというのがちょっと気になりました。

○車谷会長

保護者の立場から、お弁当について、それから子どもの気持ち、心のケアとか、そんなお話をいただきました。

ちょっと時間の関係で、次の形に移っていきたいと思うのですが、その前に、今までの先生方、皆さん方のご意見を聞く中で、中学校の全員給食について、それを前提として方向性を定めていきたいと考えているのですけれども、確かに課題はたくさんあります。その課題をこれからどんなふうに出していくかというのは、これからあと何回か検討委員会がございますので、その中あたりで含めて課題を検討していく、問題解決をしていくという方向で進めさせていただいてよろしいでしょうか。特にご異議ございませんか。

○嶋田委員

それは異議あります。今日頂いた資料の中でも、全員給食のほうが絶対的にコストは上がると想定しているのですけれども、そんなふうにもお書きになられていますよね。施設の改修も必要でしょうし、各学校の配膳室の改善が必要でしょう。人員の配置も増やさないと収まらない。行政としての財政負担は増えていくと思うわけです。

基本的に行政のやり方に一般市民が口出すべきではないと思っています。理由は、全ての情報を網羅的に知っているわけではないので、一面的な意見で行政のありように一般市民が口出すべきではないとは思っているけれども、今回やむを得ず参加をしました。

何が言いたいかというと、たしか憲法に、現在の国民と将来の国民の人権を守らないといけないというような意味合いのことを書いている条文がありましたよね。将来財政がとてもしんどくなるけれども、今政府の制度など、そういった部分をもう少し詳しくご説明いただい

て、給食センターを改修するのにかかるお金は国が出してくれますと。でも、その後の維持費、また先ほどのお話だと、大阪府が給食の全員無料化というのが始まったときに、河内長野市の財政にそれを入れたときに負担が増えるのかとか、以前から河内長野市の財政は苦しいと聞いているので、現在の市民にとっては悲劇の最小化につながるのかもしれませんが、未来の市民に対しての悲劇の最小化には決してつながらないと思います。そこのバランスを明確に判断できない現時点で、僕は全員給食で進めていくという方向でこの委員会が決めるというのはやはり異議がある。

なので、もう少しつまびらかに、この委員会は市民の声を聴く公聴会的な位置づけなのでしょうけれども、ただ、この委員会で方向性を決めてしまうのであれば、僕らは行政側の決定に加担することになるわけですから、もっと慎重に、つまびらかに情報を精査する側になってからしか判断はできないと考えます。

○車谷会長

意見として拝聴したいと思いますが、ここの委員会で全てを決定して、それが河内長野市の施策全てに行くということでは実はございませんので、その辺は共通認識しておきたいと思います。市民の方、保護者の方も入れまして、いろんな意見を聴取した上で、委員会としての方向性を出して、教育長に答申を行うということで、それ以降は実際には、答申を行った後、教育委員会内部、市庁全体で検討していただくという形になりますので、そういうことだけちょっとお考えいただけたらと思っております。

会議を進めていく上において、嶋田委員のおっしゃるように、もうちょっとつまびらかにいろんな情報をもらわないと判断ができないという気持ちは大変よく分かっております。ただ、議題として幾つかあと残っておりますので、その辺も含めましてご説明をいただかなくてはならないというふうになります。いろんな課題が残っておりますけれども、流れとしては、例えば資料にありますように、今の国の流れ、それから大阪府の流れ、各自治体の流れとか、そのあたりを見ていきますと、やはり子どもたちのために同じような形で平等に食育を進めていこうというふうな大きな流れが私自身あるように思います。河内長野の今までの経緯を見ていきますと、たくさんの課題も残っていると思っております。保護者の考え、市民の考えがありますので、ここで決定して、ここで全部進めていくというわけではございません。その辺の理解だけよろしく願いたいと思っております。

ただ、これから進めていく上において、様々な意見がございますけれども、ほかの方々の意見も踏まえていくと、流れ的には全員給食を

基本にこれから議論していきたいと考えておりますけれども、その方向でよろしいですか――。

そうしたら、その方向で確認をさせていただいて、大急ぎで次の議題に移ってまいりたいと思います。

議題2のほう、先ほど出ていましたいろんな給食の方式であるとか、そのあたりを含めてよろしく願いいたします。事務局、お願いします。

○事務局

それでは、議題2の各調理方式、自校方式、親子方式、センター方式の特徴についての説明になるのですが、こちらにつきましては、より一般的、客観的な整理という意味合いで、この会議の運営支援業務及び調査研究を委託しています、今日も同席しています株式会社長大のほうから説明させていただくほうが、より客観的になるのではないかと考えまして、長大のほうより説明させていただきたいと思っています。

#### ②各調理実施方式の特徴について

【資料02を基に事務局が説明】

○車谷会長

とても駆け足でご説明をいただきました。なかなか聞いていて理解しにくい部分もあろうかと思っておりますけれども、またじっくり読んでおいていただいて、ご検討いただけたらと思っておりますけれども、何かご質問、ご意見、特にご質問ございましたら、時間の関係上、お1人ぐらいからはお聞きできるかと思っております。

○山口委員

施設整備のところ、一斉導入が可能であるとか、一斉導入とならないとなっておりますけれども、一斉導入を目指しているのか。一斉導入しなくてはいけないというふうに捉えたのですけれども、どうなのでしょう。

あと、食中毒のリスクのところ、センターの発生リスクは少ないけれども、自校と親子調理方式はセンターに比べて発生リスクがあるとなっているのですけれども、これは何か根拠があるのですか。

各学校の行事への対応の給食数、メニュー変更への対応は比較的容易であるというのが自校で書いてあるのですが、それは警報が出たときなどの対応もしやすいと思います。また、そこに災害が起きたときの炊き出しなど、それもこの表に加えて、どういう感じになるのかというのが知りたかったというのと、この項目に食育があっても分かりやすいと思います。センター方式と自校調理方式で、食育の仕方も変

わってくるので、ここを付け加えてくれたら分かりやすくなると思います。

○車谷会長           ご意見というかご質問がございました。多分今答えられる時間がないと思いますので、今のご質問については次回お答えいただけたらよいと思いますので、記録を見ていただいて、答えていただけたらと思います。事務局よろしいですか。よろしく願いいたします。

○松原委員           総合的に判断するに当たっては、定量的なコスト面の詳しい資料があったほうが助かります。それで、やはり市の財政等も考慮しながら、現実的に可能な範囲で実施していくということを優先していくのがいいかなと私は思っています。

○車谷会長           コスト面の試算といいますが、そういうものは急に出ませんよね。そうしたら、それにつきましても、具体的な各実施方式のコストデータを試算いただいて、データの提供は次回に可能ですか。

○事務局           各実施方式のコストデータについては、次回以降の検討会で提供させていただきます。

○車谷会長           多分かなり時間がかかると思いますし、試算するに当たっての計算とか、その辺もかなり分量的にあると思いますので、次回以降にコストデータの提供をよろしくお願ひしたいと思っております。

それから、先ほど山口委員からご質問がありました点も回答が出せるように、よろしくお願ひをいたしたいと思ひます。

大変申し訳ございません。議題2のほうはそれでストップしたいと思ひます。

議題3の視察について、1回目にも出ておりました視察の要望というか、その辺につきましてのご説明を最後によろしくお願ひいたします。

○事務局           視察に関しまして、資料の4番、5番として、資料を用意しておりますので、こちらにつきましても、今、会長からおっしゃっていたように、前回の会議で視察のご要望がございましたので、こちらのほうで検討しまして、まず視察の候補地の資料をお作りして、今回提示させていただいております。これにつきましては、調査等も委託しています長大のほうより説明させていただきます。

### ③視察候補地について

#### 【資料03、04を基に事務局が説明】

- 車谷会長            実際に1回目に出されたご要望に応える形で、こういう資料を細かく作っていただきました。観点も作っていただいて、実際に現場を見ながら考えると。このことについて、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。
- 上代副会長            私、親子方式というのを見たことがないので、できれば各方式を見て比べたいです。先ほどの資料も詳しいのですけれども、やはり見て分かる所や、実際に質問もさせてもらえたらありがたいと思います。
- 車谷会長            要望として承りたいと思っております。
- 山口委員            私、以前に和泉市と宝塚市の自校調理方式の視察に行ったことがありますが、とてもよかったので、ぜひここにみんなで行って見てもらえたらいいと思います。自校調理で、説明もすごくよく分かったし、子どもたちとのやり取りを本当は見たいのですけれども、もしかして夏休みで生徒がいないところを見に行くのかと。8月ならそうだと思うので、そのやり取りが見られなかったらとても残念ですけれども、栄養教諭の方が配膳のときに、子どもたちが来たときに声かけしたりしていて、親近感というのか、やり取りがすごくよかったです。それが見られるのが一番いいと思うのですけれども、8月は夏休みなので、子どもたちがいなかったら、作っているところも見られないのかとか、それを聞きたいのですけれども、調理風景や生徒たちとのやり取りも見たいほうがいいと思います。
- 事務局            残念ながら、自校方式になりますと、調理場に入って話をするということになりますと、やはり調理を実際にしている局面では、今のコロナの感染対策上も問題が出てきたりしますし、おっしゃっておられる和泉市さんに行かれたときの想定というのは、調理場の中に入ってお話を聞かれたということなのではないでしょうか。
- 山口委員            調理場でも中には入れないです。外から見る感じにはなっています。ガラス張りになっているので、中には入れていないのですけれども、見るところがありました。

○事務局	<p>中に直接入らないというのであれば、視察先、行ったところの相手さん次第になると思いますが、それであっても、この8月、9月ぐらいに視察に行っておかないと、次の議論がなかなか進んでいかないという点が1つと、あと1つは、今の新型コロナウイルスの影響で、実際に受け入れ先がいいよと言ってくれない限りは受け入れはできないという状況もございますので、これはあくまでもいろんな視察候補地の相手さんにいろいろ声をかけまして、視察がいいよと言っただけのところしか受け入れられないという状況にあるということだけご理解はしておいていただきたいと思います。</p>
○山口委員	<p>まだ了解は得ていないということですか。</p>
○事務局	<p>一旦は問い合わせも実はさせていただいておりますが、いつ行くかとかいうふうなアポを取っているわけではないです。</p> <p>それと、実際の様子も含めて、相手方と調整は図っていきたいと思います。ただ、先ほども事務局から申し上げましたように、できる、できないというこの現状がありますので、一旦はご理解いただかなくてはいけない部分もあるということだけはよろしく願いいたします。</p>
○車谷会長	<p>今、コロナ禍の状況の中で、いろんなところが制限されている。解除されましたけれども、その辺の状況も踏まえて、事務局のほうにもう一度検討していただいて、相手方のあることですし、それから時期のあることでもありますので、お任せするという形でよろしいですか、委員の皆様。</p>
○嶋田委員	<p>実際に見に行かれた山口さんのお話をお伺いして思ったのは、こっちから集団で稼働中の調理場に見に行くというのは、受け入れ側の立場になると、万が一何か起こったときに、先方が責められることになると思います。それを想定すると、基本誰も来てほしくないというのが多分本音だと思います。でも、稼働中の生徒とのやり取りなどを見たほうがよく分かるというご助言もあったので、コンサルタント会社の長大さんのほうで、ここにご提示いただいている、これお勧めですよというところの学校に動画撮影してもらってというのは可能なのですか。</p>
○事務局	<p>正直に言うと、動画はなかなか撮るのもオーケーがもらえないケースが多いです。それはプライバシーの問題や、撮影をしているという</p>

のが、こういう公共の場で使うと言ってもなかなかオーケーをもらえないことが多いので、動画は正直に言うと我々も持ってはいないですし、撮影の許可も恐らく下りないだろうと思います。ただ、自校と親子ではないですが、センター方式であれば、株式会社長大として、給食センターのマネジメントをしている、関西近辺でいうと、稼働しているものと豊中市さんとかは弊社が関わっていますので、それに対して、可能な限りですけれども、調理の風景が分かるプロモーション用の動画がありますので、その辺の提供は可能です。

○嶋田委員

教育委員会としては、動画という提案はどうでしょう。今は長大さんのご返事だったと思うので、動画撮影で多分コストがかかるのですが、このコロナ禍のまだ懸念がある中で、動画というのも一つの考え方だと思います。稼働していない調理場を見せてもらうよりは、動いているもののほうが、おっしゃっていることはよく分かるので、止まっている調理場を見に行くより、そのほうがいいです。それを長大さんが無理なのだったら、河内長野市教育委員会として、各自治体にそういうお願いをして、許可を出していただけたところの動画を撮ってきて、ここで見たいという思いはあります。

○事務局

おっしゃるとおり、そういうコンタクトは取ったことがなかったので、今おっしゃっていただいたアイデアで一度私どもも検討してみたいと思います。委員の皆様のご意向をできるだけ尊重して、資料提供させていただけるように努力していきたいと思います。

○車谷会長

今日の議案はこれにて終わりたいと思っております。

確認をいたしますけれども、先ほど事務局のほうに、各実施方式のコストのデータの提供、それから視察について今出ました。なかなか現状としては難しいかも分かりませんが、事務局でちょっと調整をしていただいて、可能な範囲で、時期の選定も含めてご検討いただきたいということを私のほうからお願いしたいと思っております。

最後に、今日の議案はこれで全部終わったのですけれども、最終的に、先ほど確認いたしました、中学校全員給食を行うことを基本にこれから議論を進めていくということによろしいですね。

そうしたら、次回連絡を事務局のほうからお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【資料05を基に事務局が説明】